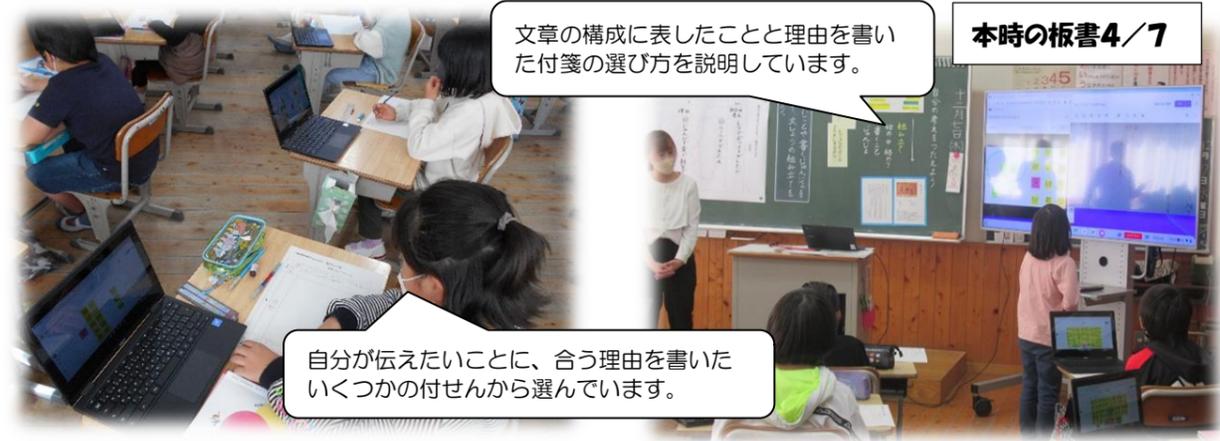
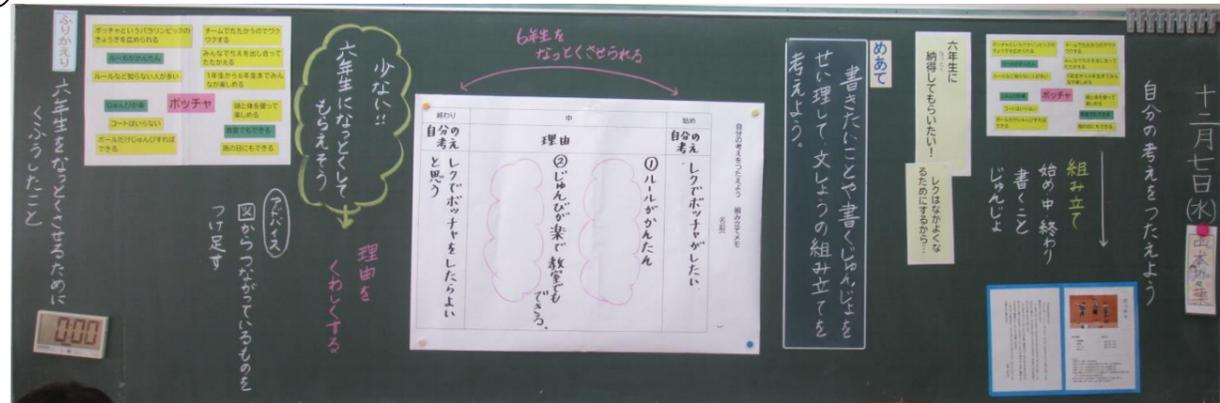


12月7日(水)は、小島先生による国語科の研究授業でした。本単元では、ファミリー朝会で行いたいレクリエーションの遊びを考え、6年生に自分の考えと理由を意見文にして伝えることを学習のゴールとしていました。

本時は、4/7時間目です。自分の伝えたいことに合う理由を選び、文章の構成を考える学習をしました。本時の授業と事後研究の様子をお知らせします。

単元名 「やってみたいな！ この遊び！」全7時間(東京書籍) 3年1組 小島 美味 先生
本時の目標：6年生に納得してもらえる文章を書くために、自分の考えとそれを支える理由を明確にし、文章の構成を考えることができる。
本時における見方・考え方：自分の考えやそれを支える理由を明確にすることで、それに関わる書きたい事柄を明らかにし、内容のまとまりをつくっていく。



本時の板書4/7

小島先生による授業のリフレクション

構成の考えさせ方や学習を深める方法など勉強になりました。タブレットを使ってもう一度構成を考え直し、学習指導を進めるようにします。ペアでの対話やグループでの学習は日頃から悩んでいて、能力が積み上がっていないので、少しでも力をつけられるように工夫していきます。

授業参観の視点(3点)に沿ってグループで協議を行い、全体共有しました。(抜粋)

- 1 本単元で身に付けさせたい資質・能力を育成するための主体的・対話的な学習活動の設定**
 - ICTを活用して、付箋を活用して理由が書けていた。「考える」⇔「書く」を意識した授業づくり)
 - ▼理由を書いていた付箋を整理しておくことが必要であった。
 - ▼できている児童からできていない児童への対話が必要だった。
 - ▼対話で深めていきたい。そのためにタイミングも大切。
- 2 児童が本気になる問題や課題の工夫**
 - 6年生に伝えるという相手意識があり、子どもがやりたくなるような単元構成になっていた。
 - 身近で体験している考えやすい課題設定となっていた。
 - 文章を書く目的を教師の発問を通して、明確にしていたことがよかった。
 - ▼子どもに困り感がなく、理由が足りないと思わせる手立てが必要であった。
 - 6年生に書いた文章を読んでもらう。
 - 理由を付箋に書いたものをもとに一度文章を書かせる。
 - ▼今日の学習のゴールとして何ができるとよかったのか。めあてと振り返りにつながりはどうであったか。
- 3 「言葉による見方・考え方」を動かせるための手立てや働きかけ**
 - 児童の手立てとなるものが多く、板書からも分かりやすい。
 - jamボードの活用をし、付箋を色分けしていたのが分かりやすかった。
 - 子どもの1つ1つの意見を拾ったり、問い返したりすることにより、こだわるポイントをもたせていた。
 - ▼2つの画面を同時に提示する利用はよかったが、自分の付箋と構成とのつながりが分かるように線を引くとよかった。
 - ▼文章構成の初め・中・終わりの「中」に視点を絞ってもよかった。

◎本時のような学習場面でペア対話→自己対話(再構成)を取り入れ、自己調整力・粘り強さを評価していきたい。

小島先生の授業からは、学習に対する目的や相手意識を持たせるための発問や問い返しがたくさん見られ、文章構成を考える場面におけるICT活用についても学ぶことができました。児童自身が、学習の目的をもち、友達との対話を通して、どう変わったのか、何ができるようになったかなど自分の学びを自覚する力もつけていきたいですね。

3学期も、資質・能力ベースの授業づくりに向けて頑張りましょう！

